

## 学 会 記 事

### 2024年度第4回理事会議事録

日時：2025年4月19日（土）14:00-17:00

【WEB会議形式】

出席役員：出席理事42名，出席監事2名

- ・会長1名：山路 敦
- ・副会長1名：杉田律子
- ・常務理事1名：亀高正男
- ・執行理事12名：岩井雅夫・保坂（内尾）優子・大坪 誠・尾上哲治・加藤猛士・小宮剛・坂口有人・高嶋礼詩・細矢卓志・松田達生・矢部 淳・山口飛鳥
- ・理事会議長1名：高野 修
- ・理事会副議長1名：野田 篤
- ・理事25名（議長・副議長を除く）：青矢睦月・天野一男・磯崎行雄・大友幸子・岡田誠・笠間友博・加藤 潔・香取拓馬・金丸龍夫・野口（神谷）奈々・川村紀子・桑野太輔・齋藤 真・佐々木和彦・澤 燦道・沢田 健・沢田 輝・菅沼悠介・田村嘉之・西 弘嗣・広瀬 亘・道林克禎・矢鳥道子・山本啓司・和田稜隆
- ・監事：岩部良子・山本正司，事務局1名：澤木寿子
- ・欠席役員：理事（8名）：内野隆之・清川昌一・小松原純子・下岡和也・辻森 樹・中澤 努・星 博幸・松田博貴
- ・議長により理事会の成立要件の確認がなされた。本日の出席者が42名，成立要件は理事総数50名の過半数26名以上であることから，本理事会は成立することが確認された。議決は出席者の過半数22名以上である。
- ・書記は田村理事，澤理事が指名された。
- ・開催に先立って，山路会長より日頃の理事の学会運営への協力等に対する謝辞が述べられた。

#### 報告事項

1. 執行理事会報告（亀高常務理事）  
亀高常務理事より，今年度第8～10回の執行理事会議事録および第11回執行理事会議事次第から，以下の点について報告があった。
  - ・執行理事会の会議時間を短縮し，開催日を平日に変更する方向で検討中，5月に試験的に実施する。
  - ・キャリアビジョン誌掲載企業は117社で過去最大になり，1月下旬に各大学に配布された。
  - ・地質標準化委員会の報告より，JISの修正内容が多く，再来年に全面改訂の予定。国際地質年代層序表（v2024/12）の日本語版を更新した。
  - ・ジオパーク学術支援連合（JGASU）の学会選出委員として天野一男理事が再任。
  - ・地理学連携機構，地理関連学校連合，人文・経済地理関連学会協議会合同総会（3/18亀高常務出席）参加報告。
2. 総務委員会（加藤猛士理事）

- ・2025年3月末時点の会員動静と，前回（12月）理事会以降の逝去会員6名の報告があった。報告の後，逝去会員に黙祷を捧げた。また，2024年度末退会および除籍予定者一覧を回覧し，確認した。
- ・永年会員顕彰者の報告。顕彰者は次の通り（敬称略）。  
70年顕彰者：2名（1954年度入会者：2024年度会費まで納入済）後藤博弥，仲井 豊  
60年顕彰者：6名（1964年度入会者：2024年度会費まで納入済）小澤智生，加瀬靖之，神谷英利，小勝幸夫，菅野耕三，早津賢二  
50年顕彰者：42名（1974年度入会者：2024年度会費まで納入済）会田信行，浅川行雄，足立勝治，足立久男，大久保進，大塚富男，岡本正也，加藤芳郎，鎌田耕太郎，川原和博，鴈沢好博，木村 学，熊田政弘，公文富士夫，境垣内隆雄，坂本治，嵯峨山積，佐藤悦郎，佐野弘好，鈴木 哲，高須 晃，谷岡誠一，谷口純造，檀原 徹，鳥居 孝，長井孝一，中村盛之，中村由克，西ヶ谷修，野村律夫，濱田 治，原山 智，藤井光男，藤崎克博，藤本勝彦，古野邦雄，保科裕，前田仁一郎，益子 保，松本仁美，山崎孝成，吉水一郎  
40年顕彰者：39名（1984年度入会者：2024年度会費まで納入済）五十嵐厚夫，池田剛，岩内明子，岩田昌寿，氏原 温，海野芳聖，笠原 茂，加藤 明，金子誓，亀尾浩司，木谷啓二，栗田裕司，五島 昇，金 秀俊，坂本 泉，佐々木和彦，菅原宏，杉山輝芳，関場清隆，竹下浩征，田中里志，田上洋人，中村晶平，七山 太，橋戸敬一郎，西 琢郎，布川嘉英，福田修武，藤田耕二，藤縄明彦，古澤 明，古谷茂継，細山光也，堀 利栄，町田隆史，松本宏彰，松村秀喜，水垣桂子，吉村実義
- ・大会運営費高騰により，2025年熊本大会から学術大会参加登録費を値上げする旨報告があった。コロナ禍明け2022年東京大会以降は赤字が続いており，値上げをしても熊本大会は赤字の見込みであることが説明された。
- ・学会オリジナルフィールドノートは在庫僅少により2025年度増刷予定。ただし，物価高騰により大幅な値上げが見込まれる。そのため，大口購入先に値上げ後の購入可否や仕様変更に関するアンケート調査をおこなった。それらも踏まえ検討した結果，ハードカバー，レインガード紙は維持しつつ，ある程度仕様を変更して1000円程度に価格を抑えて増刷する計画が説明された。
- ・学会活動における組織内のコミュニケーションツールとしてTEAMSの利用を開始する予定であり，希望する専門部会，委員会などで使用できるよう整備する。
- 3. 広報委員会（坂口理事・内尾理事）

- ・内尾理事より，学会Webサイトリニューアルの進捗状況について報告があった。仮サイトが作成され，画面デザインが共有された。スマホでも見やすい表示を製作中であることが説明された。順次作業を進行中。
- ・大坪理事より，SNS（X）のフォロワー数の増加が報告された。非会員のフォロワーが増えており，地質学会会員数を超えた。
- 4. 行事委員会（高嶋理事・山口理事）
  - ・2025年熊本大会の準備状況が報告された。市民講演会および地質情報展は科研費120万円が採択。市民講演会は，講演者に大橋智之氏（北九州市自然史歴史博）を追加し計4名の講師による講演を予定している。また巡検9コースについては，現在巡検案内書が編集集中。トピックセッションは15件を採択した。懇親会会場は上限200名であるため，早めの申し込みが必要であることが案内された。
  - ・2026年金沢大会については，巡検コース案の紹介があり，能登半島地震に関連した2コースも予定されている。2027年つくば大会については，会場と日程が調整中であることが報告された。大会委員長は氏家恒太郎会員。
- 5. 専門部会連絡委員会（尾上理事）
  - ・各専門部会の2024年度の活動報告が提出された。
- 6. 地質学雑誌編集委員会（小宮理事，代理亀高常務）
  - ・編集状況について報告があった。投稿数は堅調であること，2024年度学会各賞を受賞した方への投稿を促していることが報告された。
- 7. Island Arc編集委員会（辻森理事，代理亀高常務）
  - ・編集状況について報告があった。発行状況は例年並み。2024年インパクトファクター（IF）の予想値は1.24。
- 8. 地学教育委員会（岩井理事）
  - ・岩井理事より，大学入試センターへの意見書について報告があった。地学関連科目の平均点が他の理科科目に比べて低くならないように要望を行う。
  - ・地震火山地質こどもサマースクールは2025年度御嶽山，2026年度気仙沼で開催予定。27年度開催地がまだ決まっておらず，期日を延長して公募中。
- 9. 地質技術者教育委員会（加藤猛士理事）
  - ・第5回JABEEオンラインシンポジウム「高等学校での地学教育と大学での専門教育との連携」（3月2日）開催報告。動画はYouTubeで公開されている。
  - ・2023年度人材動向調査の結果が3月号ニュース誌に掲載された。
- 10. 生涯教育委員会（矢部理事）
  - ・2025年「地質の日」イベントとして，フォトコンテスト作品展示会をはじめ，今年も学会関連で多数のイベントが予定されている。詳細はWebサイトで確認してほしい。

いと案内があった。

- ・山路会長より、シニア会員へのアンケート実施結果について報告があった。対象者853名のうち243名からの回答があり、シニア会員間の交流促進、新知識への渴望、リモート講演会・学習会の多頻度化、居住地近くでの巡検、会費の値下げなど要望が寄せられた。また学会に対して協力できることとして、講演会等での講師役、巡検案内役として学問的な情報発信を希望する声が多数あった。引き続き、シニア層の満足度を上げる施策を検討することが報告された。
- 11. ジオパーク支援委員会（天野理事）
  - ・「大地と人の物語 地質学で読みとく伝承」の出版について状況報告があった。現在最終校正段階。6月上旬に創元社から出版予定。印刷費や通信費などの高騰により、企画提案当初より販売価格が上がる見込み（定価2,600円+税）。すでにAmazonなどに予約注文用の予告が掲載されている。
- 12. 支部長連絡会議（杉田副会長）
  - ・各支部の2024年度の活動報告が提出された。
- 13. 名誉会員推薦委員会（星副会長、代理亀高常務）
  - ・2025年度は名誉会員候補者の推薦はなかった。推薦募集に対する広報の改善も検討していることが報告された。
  - ・磯崎理事より、名誉会員の推挙は毎年3名程度の縛りがあるが、世代により人数に差があることから、前年の選考から漏れた推薦へのケアも必要ではないかとの意見があった。
- 14. 若手活動運営委員会（神谷理事）
  - ・地質系業界オンライン交流会（2/14開催）の実施報告があった。当日の参加者は25名。
  - ・今年度の活動計画として、熊本大会時に若手交流会、11月下旬～12月上旬にかけて埼玉県長瀬での若手巡検（日帰り）を計画している。また若手会員向けのメルマガ配信を開始する。メルマガは登録制ではなく、35歳以下の全会員を対象に配信する。

#### 審議事項

- 各種委員会メンバーの追加・交代  
地質学雑誌編集委員会の小宮理事より、大友幸子会員（山形大）から乾 睦子会員（国士舘大）への委員の交代に関する説明がなされた。乾氏は文化地質学分野の原稿を担当予定。若手活動運営委員会の神谷理事より、都丸大河会員（東北大）、加藤広大会員（(株)KANSOテクノス）の2名を追加する提案がなされた。審議の結果、賛成多数で承認された。
- 各種委員会規則の制定（加藤猛士理事）  
4つの委員会（地質標準化委員会、地質学雑誌編集委員会、企画出版委員会、生涯教育委員会）の規則整理を行ったことについての説明があった。地質学雑誌編集委員会について

は、実際の運用に即したメール審議を認めるなどの変更点が説明された。審議の結果、賛成多数で承認された。

- 各賞受賞者の決定（沢田理事）  
各賞選考委員会の沢田委員長より、選考結果について報告がなされ、審議の結果、賛成多数で承認された。受賞者は以下の通り。  
都城秋穂賞（1件）：ジェラルール シェンゲオール氏  
小澤儀明賞（1件）：松本廣直会員  
論文賞（2件）：別所孝範ほか（2024）地質雑、130, 35-54/亀高正男ほか（2019）地質雑、125, 793-820。  
小藤文次郎賞（1件）：岩森 光会員  
研究奨励賞（1件）：米岡佳弥会員  
フィールドワーク賞（1件）：松山和樹会員  
学会賞及び欄山雅則賞は該当者なし。  
なお、今年度は推薦数が少なく、特に専門部会からの推薦が少なかった。原因を調査し推薦数の増加を図る必要性が理事会へ申し送られた。これについては、部会内での議論や交流機会が減少していることが原因に挙げられ、従来のMLがメルマガ方式のシステムに変更され、使いにくいことも影響しているのではないかと、推薦を出さない部会に対して働きかけて推薦を促したいとの意見もあった。亀高常務理事からは推薦数の減少は執行理事会内でも問題視しており、学術大会ランチョンや夜間小集会所も活用して、部会活動の活性化を図っていただきたい旨コメントがあった。山路会長からは部会推薦だけでなく、会員個人の推薦も可能であるから、促進したいとの意見があった。
- 研究奨励金支給対象者の決定（内野理事、代理亀高常務）  
選考の結果について説明があった。支給対象者として4名（高橋恒佑会員、古庄航輝会員、鈴木捷太会員、福井堂子会員）を選考した。いずれも満額の20万円。選考基準についての質問があり、フィールドワークの重視、研究内容、支給される奨励金の使用用途などを考慮していることが説明された。審議の結果、賛成多数で承認された。
- 地質学雑誌等デジタルアーカイブ化について（尾上理事）  
2004年以前の地質学雑誌掲載論文は英語要旨がないものがあり、J-STAGE上の論文PDFが画像であるため自動検索に認識されないという問題が報告された。学術検討WGで検討した結果、1956-1998年の論文について、Abstractと日本語抄録をテキスト化することが提案された。費用見積りは2025年度予算に計上されとの説明があった。審議の結果、賛成多数で承認された。
- 地球・資源分野JABEE委員会の事務局機能の引継ぎ（加藤猛士理事）  
地球・資源分野JABEE委員会の事務局機能を地質学会に引き継ぐことに関する説明がなされた。現在事務局は資源・素材学会が受けているが、今後地質学会が引き受けてほしいとの要望があった。業務委託契約となる予

定。2025年度は移行期間（引継ぎ）、2026年度より正式に引き受けることが補足された。審議の結果、賛成多数で承認された。

- 2024年度事業実施概要（案）（亀高常務理事）  
2024年度の学術大会、学術研究活動、出版活動等の報告がなされた。審議の結果、賛成多数で承認された。
- 2025年度事業計画（案）（山路会長）  
山路会長より2025年度の事業計画の説明がなされた。審議の結果、賛成多数で承認された。
- 2024年度決算概算（案）（加藤猛士理事）  
2024年度の決算の説明があった。収入について、会員数前年度比10名減で下げ止まり状態のため会費収入は前年度並みであった。補助金収入は、山形コンベンションからの学術大会助成金が大きかった。支出については、特に支部・部会等活動事業支出が減少した。これは支部活動がコロナ禍以前ほどに復調していないことが考えられる。各事業別にはプラス、マイナスがあるが、全体としてはバランスが取れたため、総収支は約24万円の黒字であることが報告された。審議の結果、賛成多数で承認された。
- 2025年度予算案（加藤猛士理事）  
2025年度の予算案の説明があった。収入については賛助会員増加、前年度並みの新規入会者を期待して会費収入の増額を見込んでいる。引当金の取り崩しは、学会HPリニューアル事業、フィールドノートの増刷、学術大会補填費用として予定していることなどが説明された。西理事より、HPリニューアルと地質雑のデジタルアーカイブ化のどちらの事業を優先して進めるのか、またアーカイブ化用の基金整備が必要ではないかとの質問があった。加藤理事からは、2025年度に両方の事業を進める予定であり、アーカイブ化は現時点では単年度事業として計画しているため、基金ではなく事業準備引当金より取り崩す旨回答があった。審議の結果、賛成多数で承認された。
- 各賞関連の規則改正案（亀高常務）  
各賞関連の規則（運営規則、各賞選考規則、選考委員会規則）改正案の説明があった。小澤賞、欄山賞、ナウマン賞、研究奨励賞、フィールドワーク賞対象者の対象期間が最大限活かせるよう、対象期間の期日変更を行う。学生優秀発表賞の対象者を「学生会員」から「学籍のある会員」とする（社会人ドクターや学生会員登録を行っていない会員も対象）。専門性を考慮した人選ができるよう、各賞選考委員を理事以外からも選考可能とする。利益相反の観点から、選考検討委員会から前・現会長を外す。などが説明された。金丸理事より学生優秀発表賞の「学籍のある会員」の証明やチェックはどのように行うのかとの質問があった。執行理事会、事務局からは、基本的には性善説に基づく自己申告であるが、講演申込の際に所属を明記するので問題ないとの回答があった。審議の結果、賛成多数で



承認された。

12. 総会議案の決定（亀高常務）

総会の議案内容について説明があり、審議の結果、賛成多数で承認された。

監事コメント

（山本監事）新会員管理システムの導入や各種規則の制定が進められており、学会運営は効率化していると評価している。会員数の減少が見込まれる中、運営や会員サービスが損なわれない範囲で、今後も効率化をすすめてもらいたい。

（岩部監事）若手活動が活発になっており、学生等に良い影響が広がっていると思う。シニア会員向けの内容も具体的な検討を進めて、シニアの活躍の場を作ってほしい。様々なリクエストや考え方を上手に汲み取って、活動・活躍の場を作り、会員の満足度を上げてもらいたい。

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長、副議長および出席監事、理事は次に記名・捺印する。

2025年5月14日  
一般社団法人日本地質学会  
理事：議長 高野 修  
理事：副議長 野田 篤

代表理事：会長 山路 敦  
理事：副会長 杉田律子  
理事：副会長 星 博幸  
監事：山本正司  
監事：岩部良子  
理事：出席理事名（省略）

2024年度  
第11回執行理事会議事録

日程：2025年4月19日（土）10:00-12:14

【WEB会議】

出席：山路 敦、杉田律子、亀高正男、岩井雅夫、内尾（保坂）優子、大坪 誠、尾上哲治、加藤猛士、小宮 剛、坂口有人、高嶋礼詩、細矢卓志、松田達生、矢部 淳、山口飛鳥

監事：岩部良子

欠席：星 博幸、内野隆之、辻森 樹、山本正司（監事）

事務局 澤木

\*定足数（過半数：10）に対し、執行理事15名の出席

\*前回24-10議事録案は、本執行理事会にて承認された。

報告事項（理事会報告の確認）

1. 全体的報告

・3/18（火）第16回 地理学連携機構、地理関連学会連合、人文・経済地理関連学会協議会合同総会参加報告（亀高常務出席）。

大学共通テスト科目「地理総合」・「地理探究」の動向や3団体の一本化などの議論があった旨報告があった。

2. 運営財政部会（加藤・細矢）

1) 総務委員会

＜共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等＞

・科学技術振興財団より「青少年のための科学の祭典2024」の終了報告があった（日本地質学会後援）。2024/6/8-2025/1/26開催、来場者総数120,399名。

・科学技術振興財団より「青少年のための科学の祭典2025」各大会（2025/6/14-2026/1/25、全国29都道府県42会場で開催）への後援依頼があり、承諾した。

・地質調査総合センターより令和7年度運営体制の挨拶があった。センター長：中尾信典、副総合センター長：藤原 治（新任）ほか。

＜会員＞

1. 今月の入会者：賛助会員1社、正会員8名（一般2、シニア1、学生5）

賛助会員：株式会社地球科学総合研究所

正会員一般：黄 文成、片桐貴浩

正会員シニア：堀越 徹

正会員学生（単年度2名、2年バック1名、3年バック2名）：佐野友洋、辻 光彦、若山和真、窪田虎太郎、本田 花

2. 今月の退会者：なし

3. 今月の逝去者：1名

正会員シニア：橋本邦俊（逝去日：2025年2月21日）

4. 2025年3月末会員数

賛助36、名誉34、ジュニア会員6、正会員3022〔内訳 一般1935、シニア818、学生269〕、合計 3098（昨年比+3）

5. 2025年度永年会員顕彰者（89名）

70年：2名、60年：6名、50年：42名、40年：39名 を回覧資料で氏名にて確認した。

6. 前回（12/14）理事会以降の逝去者氏名（6名）（ ）の日付は逝去日

名誉会員（1）杉村 新（2025年3月1日）

正会員シニア（4）千代田厚史（2021年6月4日）、古川克彦（2024年11月27日）、徳山英一（2025年1月13日）、橋本邦俊（2025年2月21日）

正会員一般（1）松原尚志（2025年3月6日）

7. 年度末退会者&除籍者

①2024年度末退会者（81名）、②2024年度末除籍者（48名）を当日回覧資料にて氏名を確認した。

＜会計＞特になし

＜その他＞

・学術大会参加登録費改訂：一般会員の事前登録費を6000円→8000円に改定予定。そのほかの下院種別についても改訂する。ただし、学部学生、名誉会員については据え置き。

・フィールドノート増刷：一定の仕様を維持しつつ、紙質を見直し3000部発行、販売価格1000～1100円で進める方針。

・TEAMSによるファイル共有：ファイル共

有用ストレージとして6月の総会以降、各種委員会、専門部会からの申請に基づき順次開設予定。

3. 広報部会（坂口・内尾・大坪・松田）

1) 広報委員会（坂口・内尾）

・学会ウェブサイトのリニューアル進捗について：仮サイトが完成し、最新情報表示、スマートフォン対応などの機能が実装済み。今後コンテンツ精査と微調整を進行予定。

・SNS（旧Twitter）のフォロワー数が会員数を上回ったことについても報告された。

4. 学術研究部会（辻森・尾上・高嶋・山口）

1) 行事委員会（高嶋・山口）

・熊本大会では巡検案内書が順調に進行中。トピックセッションはすべて採択済み。

・金沢大会はLOCが組織され、巡検案も進行中。

2) 専門部会連絡委員会（尾上）

2024年の活動報告について14部会から活動報告を受領。構造地質部会からは未提出（→会議後提出）。

3) 国際交流委員会（辻森）

特になし

4) 地質標準化委員会（内野）

特になし

5) 学術戦略WG（尾上）

特になし

6) ショートコースWG（山口）

特になし。

5. 編集出版部会（小宮・辻森）

1) 地質学雑誌編集委員会（小宮）

（1）編集状況報告（2025年4月16日現在）

・2025年投稿論文：16（昨年比+4）〔内訳〕総説1（和文1）、論説8（和文8）、報告1（和文1）、レター2（和文2）、ノート1（和文1）、巡検案内書3

査読中31、受理済み1、入稿・校正中9、公開4

2) Island Arc編集委員会（辻森）

インパクトファクターが1.2程度となる見込みとの報告。

3) 企画出版委員会（小宮）特になし。

6. 社会貢献部会（矢部・岩井・坂口）

1) 地学教育委員会（岩井）

大学入試センターへの意見書原案を作成・配布済。特段の意見がなかったため提出予定。

2) 地質技術者教育委員会（加藤）

シンポジウム報告およびYouTube公開の案内。

3) 生涯教育委員会（矢部）

理事会で「地質の日」イベント（5月予定）について宣伝予定。

4) 地震火山地質こどもサマースクール（岩井）

特になし

5) 地質の日（矢部）

・5/10（土）「地質の日」オンライン一般講演会について、坂口理事に協力いただき添付のチラシを作成しWebページ等での広報を行なっている。13の関連学協会に広報